

## 今年の食味も変わらぬ美味しさ！新ブランド米も立ち上げ！ 気候変動に負けないコメ産地へ、長岡市の4つの対策

今夏の記録的な猛暑と少雨による水不足は、農作物に大きな被害を与えており、今年度の緊急対策として、市では、ポンプ購入などの渇水対策や農地復旧に係る費用の支援を実施してきました。

このような厳しい状況の中でも、農業者の皆さんは誇りと自信をもって生産してきましたので、長岡米の「美味しさ」は健在であることを市としても積極的にPRし、下支えしていきます。

今後は、農業者のセーフティネット強化として「収入保険の加入支援」、等級低下による風評被害対策として「うまい長岡米の発信」、等級重視の市場からの脱却を目指す「新ブランド米の立ち上げ」、気候変動に対応した強い生産体制の確立のための「スマート農業の活用促進」の4点を柱に米政策を展開します。

### 1 今夏の被害状況について

コシヒカリを中心に、高温障害（白未熟粒の発生）による等級低下が発生し、一等米比率は1割にも達していません。農業者の収入が大幅に減少していることに加え、消費者に食味低下などの不安が広がることも懸念されます。

【コシヒカリの品質状況（10/31時点・JAえちご中越）】

エリア	1等	2等	3等	規格外
ながおか（長岡、山古志、栃尾）	2.7%	31.4%	<b>60.3%</b>	5.7%
さんとう（越路、寺泊など）	0.5%	6.3%	<b>73.8%</b>	19.4%
なんかん（中之島）	0.0%	7.3%	<b>83.7%</b>	9.0%
おぐに（小国）	7.9%	<b>54.9%</b>	31.7%	5.5%
参考（R4年産 ながおか）	<b>76.3%</b>	21.9%	1.4%	0.4%

### 2 次期作を見据えた4つの対策

#### （1）セーフティネットの強化「農業収入保険の加入支援」

農業者の経営努力では避けられないリスクによる収入減少を補償する収入保険への加入を支援することで、農業者の事業継続や地域農業の維持を図ります。

**補助対象者：** 令和5年10月から令和6年3月の間に保険期間が開始する収入保険への新規加入者および継続加入者

**補助金額：** 保険料（掛け捨て部分）の2分の1以内（上限なし）

**予算額：** 40,000千円

**運用開始日：** 令和5年11月7日（火）※本日

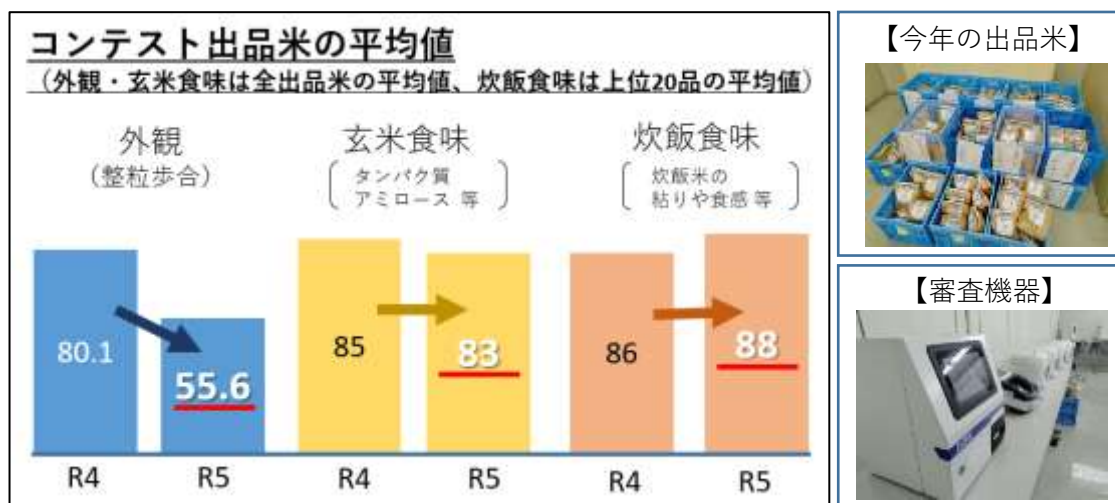
## (2) 風評被害を防止「長岡うまい米コンテストによる情報発信」

農業者の生産意欲を高めるとともに、長岡米の美味しさを全国に発信し、再認識いただくことを目的に、「長岡うまい米コンテスト 2023」を開催します。現在、検査機器による外観スコア（整粒歩合）、玄米食味値（タンパク質やアミロースなどの成分）、炊飯食味値（炊飯米の粘りや食感など）の審査を終えたところですが、食味は例年と変わらず高いレベルを維持していました。

日時：令和5年11月23日（祝・木） 午前10時～午後3時30分

会場：アオーレ長岡 アリーナ（長岡市大手通1-4-10）

内容：コンテスト最終審査会、新ブランド米おにぎりプレゼント、市内学校田米販売、地場産マルシェなど（別紙1参照）



## (3) 等級以外の価値を創出「新ブランド米の立ち上げ」

流通上の価値（等級）ではなく、環境に優しい農法で栽培したという本質的な価値に着目した長岡独自のブランドを新たに立ち上げ、高付加価値化を図ります。

ブランド名称 『小さな生き物たちと育むお米』

- ・ 生産者などの意見を踏まえた名称で、食味を重視した「金匠」に次ぐセカンドブランドとなります。
- ・ 今年度は、長岡うまい米コンテストで市民の方へお披露目（おにぎり配布）をするとともに、ふるさと納税の返礼品として限定提供（11月下旬～）を予定しています。本格販売は来年度からの予定です。

<p>【ブランドロゴ】</p> 	<p>【使用イメージ】</p> 	<p>【ブランド認証基準】</p> <p>減農薬・減化学肥料栽培に加え、持続可能な社会に向けた農法（冬期湛水による生物多様性の維持や堆肥やもみ殻燻炭の使用による温室効果ガスの削減など）を用いて栽培されたお米を認証</p> 
---	---	---

#### (4) 強い生産体制の構築「スマート農業の活用促進」

##### ① 水モニタリングシステムの活用

長岡市では、令和5年度から、市内約70の農業者や土地改良区の協力を得ながら、市内各地の水田等に約650台のIoTセンサー（水田水位や水温、気象情報、用水路水位）を設置し、モニタリング及びデータ化を実施しています。

農業者においては、センサーを活用した適切な水管理の実施ができたほか、市では今年の異常気象時の水田の状態もデータとして記録することができました。今後、これらのデータやCOI-NEXTと連携した新たな土づくりの手法などの活用により、気候変動に負けない産地を目指します。



##### ② 次世代園芸施設の普及による複合経営化の促進

ICTやIoTを活用した次世代園芸施設は、生産量や品質が気候や栽培技術に左右されず、冬期間の所得確保にもつながるため、複合経営（米と野菜など、2つの作目に取り組むこと）に向けた導入が期待されています。

長岡市では、令和4年度に、「あぐらって長岡」内に、次世代園芸研修施設を整備し、市内農業者の研修の場として公開しています。今後、市内への次世代園芸施設の普及を図り、複合経営化を促進していきます。



（ 問い合わせ  
農水産政策課 曾根 電話0258-39-2223 ）